

雑がみ回収袋に関する新聞記事掲載について



●雑紙回収の「お礼」として、市からデザートを受け取った児童たち（3月）
 ○「フックン」が描かれた雑紙の回収袋=いずれも寝屋川市提供



ごみの減量とリサイクルを促進するため、寝屋川市は可燃ごみとして捨てられがちな古いノートなどの「雑紙」を市内の小中学校で回収。その「お礼」として、子どもたちに給食時のデザートを提供している。

10/16 Y
 古ノートデザートに「変身」

36小中学校に回収袋

寝屋川市ごみ減量事業

雑紙とは、リサイクル可能な紙のごみのことで、ノートのほかに、ティッシュ箱やトイレットペーパーの芯などが該当する。市の2016年度の調査では、家庭から出される可燃ごみの約16%に雑紙が混入していた。

改善に向けて市は昨年10月、市内の小中学校36校に回収ボックスを設置。家庭からの回収を呼びかけたところ、昨年度は565キが集まり、児童・生徒約1万6000人に、りんごタルトやクレープが提供された。

今年度は新たに、市のごみ減量推進オリジナルキャラクター「フックン」が描かれた回収袋を配布。リサイクルを呼びかけている市環境総務課は「雑紙を資源ごみとして分別する習慣を、子どものうちから付けてほしい」としている。